Japanese Association of Educational Psychology

臨床・障害4（826～833）

座長　冨安芳和・吉村順子

826　精神遅滞児の言語発達
—語獲得過程の分析—
愛知県コロニー発達障害研究所
二宮　昭

827　精神遅滞者施設におけるケアのパターンに関する研究XII
愛知県コロニー発達障害研究所
冨安芳和

828　精神遅滞者施設におけるケアのパターンに関する研究XIII
愛知県コロニー発達障害研究所
小塩允護

829　精神薄弱児の記憶
—体制化ストラテジーの効果に見られる発達的変化（2）—
大阪教育大学　島田恭仁

830　精神遅滞児の rhythmic movement における temporal accuracy
宮崎県門川小学校　新原とも子

831　重度精神薄弱児の自傷
—施設収容児の調査（3）—
国立秩父学園　沼尾孝平

832　ステップ可変型教材を用いての Th の教授方法に関する臨床訓練　I
—ステップ可変型教材の開発—
淑徳大学　宇佐川　浩

833　行動模倣を特徴とした多動・発達遅滞男児の症例
京都大学　吉村順子

826（二宮）に鈴岡（聖徳園）より，対象児の象徴遊びの変化について質問があり，観察開始直後は他者と遊ぶことができなかったが，3～4か月後には他者と役割を持った遊びが可能となったという回答があった。沼尾（国立秩父学園）からは，Th とのラポートゆえの発語の増加と絶対的な言語発達との区別がなされたかという質問があった。それに対して，共同研究者の中根が対象児と一緒におり，C3 以降関わりは密になったが，細かなインターラクションの分析は現在進行中との回答がなされた。

827・828（冨安・小塩）に対して，沼尾より，1．居住者中心のケアパターンの変化は何によってもたらされると考えるか，職員の意識か，それともより大きな制度の差か？　2．同じ重度棟間で，得点の大きな開きがあるというが，その理由はなんと考えるかという2つの質問がなされた。小塩より，。直接的なケアは職員個人個人の意識よりむしろ制度上のケアパターンが具体的なケア行動を規定している。。2つの重度棟間で大きく異なっているのはRCMSの得点，つまりケアパターンである。との答がなされた。

829（島田），831（沼尾）に対して，末岡（北海道教育大）から，「精神遅滞児」ではなく「精神薄弱児」とした理由と，829に対して，MA・IQ が normal で CA が同じ対象者との比較の必要性についての2点の質問がなされた。それに対して島田は，。特に理由はないが，題目に用いた「薄弱」は慣用的表現。「遅滞」の方が望ましいと思う。。健常児の対象群は今回の発表では時間その他の都合でとることができなかった。と回答があった。

830（新原）に対して冨安（愛知コロニー）より，tapping も stepping も motor であり，各々，perception 課題，motor 課題と言うのには無理があるのではという質問が，迫（岡山大学）からは刺激間間隔の長短で2つの課題の成績が変動するのではという質問がなされた。新原は，。リズム知覚の能力そのものを運動を通さずに測定することは困難なので，できるだけ運動能力の関与しない課題としてタッピングを選んだ。。普通児を対象とした予備実験において誤差が少なく安定しているということで 900msec を選んだとの回答がなされた。また，天羽（日女大）からは，1．感覚系の障害か，運動系の障害かは脳波レベルで調べられる。2．研究と訓練は分けた方がいいという助言があった。

831（沼尾）に対して，内田（鹿児島大）より，自傷発現のメカニズムに関与する要因についての質問があり，沼尾より，言語，歩行，対人関係の能力の各々が影響していると，経験及び結果から考える。各人それぞれにとって異なったものが要因となっているとの回答がなされた。

832（宇佐川）に対して，二宮より，人材教育より教材開発の方が有効ではないかとの質問がなされた。それに対して，障害児教育では教材開発は非常に重要，特に Th が初心者では良い教材が重要だが，その後は資質，経験による差が大きい，従って相互的に検討していく必要があると回答がなされた。また，天羽から，教材の進歩発達と教授者の質の関係は関連し合い乍ら変化するとの意見が出された。

833（吉村）には，鈴岡より，症児の要求表現についての質問があった。　（吉村順子）

NII-Electronic Library Service